

IRIS 認証取得と 今後の展開

IRISとは

IRISはInternational Railway Industry Standardの略称で、国際鉄道産業標準と呼ばれる認証規格である。当社は、2013（平成25）年9月20日付で補助電源装置についてIRIS認証を取得した。補助電源装置での認証取得は日本企業で初めてである。

IRISは、広く普及している品質マネジメント規格であるISO9001をベースに鉄道に特化した規格であり、UNIFE（欧州鉄道産業連盟）メンバーの主力企業が中心となって、2006年に初版が発行された。本部はベルギーのブリュッセルにある。

IRISの要求事項はISO9001をそのまま含み、それにIRIS特有の要求事項を追加した構成になっている。IRISとして追加された項目には、安全方針・安全目標、ナレッジマネジメント（知識の管理）、緊急事態対応計画、KPI（重要業績評価指標）、引き合い・入札やサプライチェーンのマネジメント、プロジェクト管理、RAMS（安全性・信頼性の評価）、LCC（寿命までの必要費用）、構成管理（製品の構成の文書化）、旧式化に対するマネジメント、不適合プロセスの管理などがある。

審査の特徴は採点方式が導入されており、約250*の項目について設定された評価基準によって5段階で採点される。また、ロックアウトクエスチョンと呼ばれる12*問の確認項目があり、不適合と評価されるとその場で審査が打ち切られてしまう。（*：認証取得時）

日本国内の企業のIRIS取得状況は、2018年10月時点で8社10事業所に留まっているが、全世界では1,350事業所を超え、とりわけ中国企業の取得の伸びが著しく、650事業所を上回っている。なお、当社の中国合弁会社である常州朗鋭東洋伝動技術有限公司でも2016年8月に歯車装置についてIRIS認証を取得している。

IRIS認証取得の必要性

中国案件の入札にIRISを取得していることが要求されるようになり、2011年5月に交通事業部としてIRIS取得の方針が出され、同年4月に発足したばかりの交通品質管理部が取得に向けての活動を開始した。IRISを取得した企業は入札で有利になるとともに、世界中からアクセス可能なIRISのサイトで公表され、ISO9001よりも高度な認証を取得したことで商機の拡大に結び付けることができる。



認証取得に至るまで

認証取得に向けての活動は、IRIS規格の日本語版が市販されておらず、どのようにして認証取得への体制作りをしていくかも不明だったため、まずはコンサルタントを選ぶことから開始した。

活動体制は、関連部門長とコアメンバーによる20名のプロジェクトチームを発足させ、1年半で補助電源装置のIRIS認証を獲得する計画の下、2011年11月8日にキックオフした。活動はコンサルタントからIRISの要求事項の説明を受けることから始まったが、この段階では抽象的と言える要求事項の内容を理解するのが難しく、相当な困難が予想された。実作業は、IRISの管理体制の根幹をなすマニュアル作成を主体に進めた。コンサルタントからは合計29回の指導を受け、完成したIRISのマニュアルは68ページと、ISO9001のマニュアルの2倍強のボリュームとなった。

また、マニュアルの作成が進むにつれて、既存の社内規定ではIRISの要求事項に対応できない箇所が明確になり、各部門で規定の改訂や新規発行を実施した。

これらの作業を約1年間にわたって続け、運用に入った段階で、2013年2月に認証機関の予備審査を受けた。予備審査は、本審査で重大な不適合が出ないよう受審を推奨されているものである。

本審査には1次と2次があり、予備審査での指摘事項を改善した上で、同年4月に1次審査を受審した。この時までは、IRISの取得対象を輸出向けの補助電源装置としていたが、審査員から輸出向けに限定することに難色を示され、国内向けも対象とするよう要求された。そのため、これまで全くIRISに係わっていなかった国内営業部門も急ぎよ対応に迫られ、2次審査の受審はIRIS認証の期限ぎりぎりまで延ばすこととなった。

2次審査は、2013年7月に5日間にわたり2名の審査員によって各部門の詳細な審査が実施された。そこで指摘された事項への是正作業を行い、2013年9月のフォローアップ審査に合格し、計画より数カ月遅れたものの、IRIS認証を取得するに至った。

今後のグローバル展開への期待

IRISはISO9001と同様に認証取得後も毎年審査があり、審査では適合・不適合の判定の他、管理体制を向上させるための改善提言が出される。また、IRISは内容が強化され、ISO/TS22163として2017年5月にISO化されたが、当社は移行審査にも適合することができた。

IRIS認証取得は、当社のビジネスマネジメントシステムが国際的に認められたことであり、今後のグローバル展開に寄与していくものと期待される。



IRIS認証（2013年）



補助電源装置